

第148期のご報告

2014年4月1日～2015年3月31日

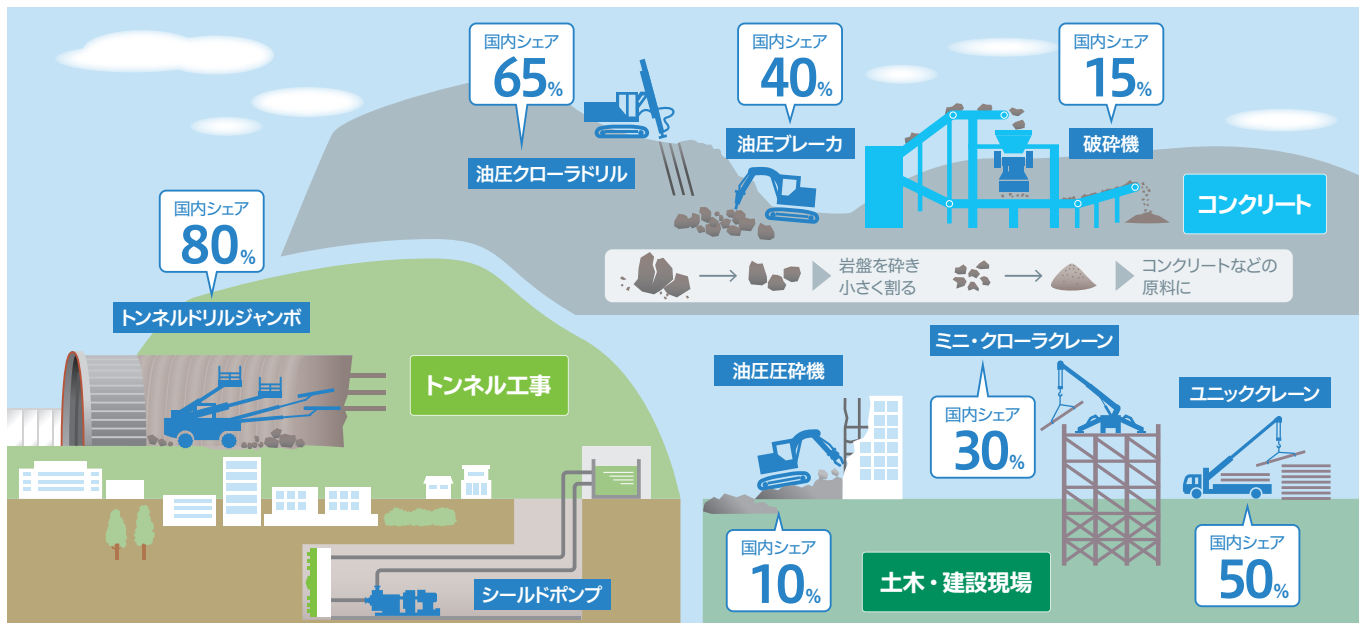
古河機械金属グループの事業領域	1
株主の皆様へ	2
特集	3
古河機械金属の成長戦略	
事業部門別の概況	7
財務データ	9
会社概要及び株式の状況	10

140 years



1875(明治8)年創業以来、当社は銅山事業を出発点に、常に時代の要請に応えるべく様々な事業を展開してきました。銅山開発で培われた当社のコア技術は長い歳月とともに進化発展し、現在の当社グループの事業領域の礎となっています。

インフラ整備にかかる当社製品群と国内シェア



シネマPV

社会基盤を支える
古河機械金属
インフラ編

古河機械金属 YouTube

検索

https://www.youtube.com/watch?v=gTszdxNNG_w

インフラ整備の川上から川下まで、当社製品がどのように関わっているかをわかりやすく紹介したシネマPV(6分)です。

コンクリート原料(石灰石や砕石)の採掘現場で活躍する“油圧クローラドリル”や“破碎機”、トンネル工事現場で不可欠な“トンネルドリルジャンボ”や“シールドポンプ”、土木・建設現場で見かける“ユニッククレーン”など、現場で活躍する各種製品をぜひご覧ください。



株 主 の 皆 様 へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第148期(2014年4月1日から2015年3月31日まで)の決算の概要をご報告申し上げます。

経営環境と業績について

当該期間の日本経済は、個人消費などに弱さが見られましたが、企業収益が改善し景気は緩やかな回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループの売上高は1,725億44百万円(対前期比95億18百万円増)、営業利益は89億25百万円(対前期比20億39百万円増)となりました。売上高は主にロックドリル、ユニック、金属、不動産事業で対前期比増収となりました。営業利益も主にロックドリル、ユニック、不動産事業での増収により増益となりました。経常利益は66億3百万円(対前期比4億52百万円増)となりました。特別利益には、受取補償金8億19百万円、事業撤退完了に伴う利益6億44百万円、事業譲渡益5億29百万円ほか、特別損失には、堆積場安定

化工事引当金繰入額24億8百万円ほかを計上しました。また、ポート・ケンブラ・カパー Pty. Ltd.事業の撤退完了に伴い、当社及び連結子会社が保有していた債権を放棄したことで、法人税等調整額が50億17百万円の利益計上となり、当期純利益は97億93百万円(対前期比58億16百万円増)となりました。

配当につきましては、前期より2円増配し、1株当たり5円とさせていただきます。

中長期的な戦略について

当社グループは、①機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進、②新製品の事業化に向けた開発の促進を基本方針とし、引き続き収益力の向上と企業価値の増大を図ってまいります。機械事業においては、復興工事、整備新幹線、リニア中央新幹線、国土強靱化計画、更には東京オリンピックと堅調に推移する国内需要を取り込み収益基盤の強化を図る一方、海外では資源開発、インフラ整備を中心に将来への基盤を築いていきます。また、刷新した研究開発体制により、機械、素材の分野を超えた柔軟な発想で、開発効率・スピードを高め、新製品開発を活性化させていきます。

株主の皆様には、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年6月



代表取締役社長

宮川尚久




140年で培った
経験・技術を活かし、
情熱を持って、
社会に必要な存在意義のある
企業にしていきます。

代表取締役社長
宮川 尚久

Q1 現在の経営計画についてお聞かせください。

A1 機械事業の展開と新製品の事業化に引き続き注力します。

当社グループは従来から、「機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進」「新製品の事業化に向けた開発の促進」のふたつの戦略に注力してきました。今後もこの基本方針を踏襲していきます。

特に機械事業は、当面、国内外でインフラ整備に向けた需要が見込まれます。すでに当社が一定の評価を得ている国内市場では、この需要を確実に取り込むべく取り組んでいます。 また、海外市場においても、確固たる地位を築

いていくための施策を進めています。本事業をけん引役として、着実に業績を積み上げていきます。

その一方で、2014年12月に新設した「つくば総合開発センター」を有効に活用し、各事業分野向けの製品開発に取り組むとともに、新しいビジネスモデルの構築を図っていきます。

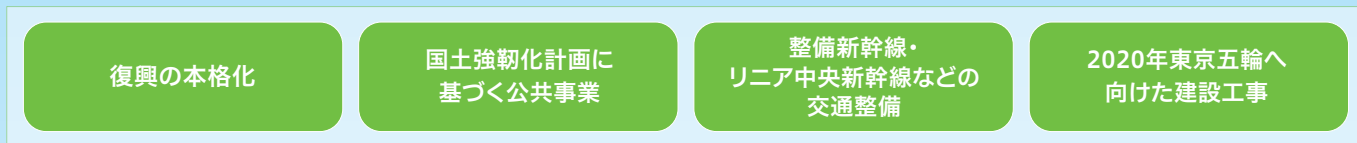
古河機械金属の基本方針

機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進

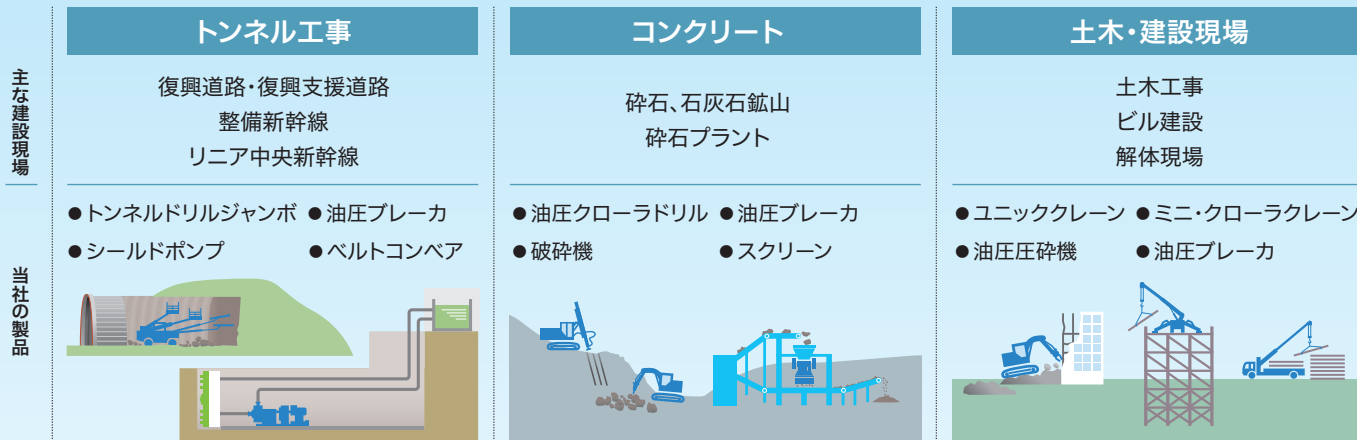
新製品の事業化に向けた開発の促進

【図1】古河機械金属の事業環境と重点分野

取り巻く事業環境



重点分野



Q2 これから注力していく事業・取り組みを教えてください。

A2 インフラ整備需要を国内外で取り込んでいきます。

国内を見れば、様々なインフラ整備がまさに進行・計画中です。これらは、当社が鉱山時代から培ってきた技術や製品、積み上げてきた実績を一番活かせる分野であり、もっとも力を入れていく重点分野です。一方近年では、当社の有する技術・製品が再び評価されてきています。

例えば陸前高田市の復興事業では、高台移転造成工事の土砂搬送において、当社のベルトコンベアや破碎設備が

採用されました。【図2】 いずれも鉱山で使用する設備ですが、土砂の搬送量が多く、ダンプで運ぶよりも効率的に短期間で搬送できること、環境負荷が低いことが採用の決め手になりました。また、単なる製品売りではなく設計から施工、更には運転管理ができることも当社の強みであり、今回の工事で見直された部分でもあります。業界を超えて運転手不足が叫ばれている昨今、少ない人員で確実に工事を進めるという観点からも、土砂搬送において更なる採用のチャンスがあると思っています。

【図2】復興関連の実績



陸前高田市の高台移転造成
工事での土砂搬送において、
ベルトコンベアや破碎設備
が採用されています。



復興道路等のトンネル工事では、トンネルドリ
ルジャンボが多く採用されています。

【図3】リニア向けジャンボを開発し
ゼネコン各社にアピール



2014年12月、ゼネコン各社を招
き、リニア工事向けに開発した新型
トンネルドリルジャンボの説明会及
び実演を実施。情報化施工に対応す
る性能の高さをアピールしました。



また、リニア中央新幹線・整備新幹線開通のカギを握る山岳トンネル工事では、当社のトンネルドリルジャンボが大いに活躍できます。これまでも多くの現場で採用され、トンネル工事の最前線で実績を上げてきた製品です。現在、来る工事に備え、ナビゲーションシステムなど新たな機能を搭載し、より安全で効率的な作業を可能とした新型機を、ゼネコン各社にPRしているところです。【図3】

このほかにも、土木・建設現場では、資材の運搬と積み下ろしを一台で可能にするユニッククレーンや、ビルの解体現場でコンクリートを破碎する油圧圧砕機など、多数採用されています。

一方、海外では、新興国を中心にインフラ整備が進行中の地域が少なくありません。当社が強みとするロックドリル、ユニック、産業機械などの機械製品の需要はまだまだ拡大すると見られます。より大きな市場が期待できる海外において確固たる地位を築くべく、現在、将来への基盤づくりを進めているところです。

例えばユニック事業では、タイを世界戦略製品の生産拠点とすべく、生産設備を増強しました。【図4】佐倉工場での輸出機の生産を順次タイに移管し、佐倉工場は国内向けの生産とマザー工場として、重要な役割を果たしていく予定です。

ユニック
クレーン



トラック搭載型クレーンのユニッククレーンは、新興国を中心に市場を開拓しています。



ミニ・クローラ
クレーン

コンパクトで自走可能なミニ・クローラクレーンは、建設現場や屋内の狭いスペースで作業可能なため、欧米を中心に用途開拓が進んでいます。

【図4】ユニッククレーン
～タイを世界戦略製品の
生産拠点に～



タイをユニッククレーンとミニ・クローラクレーンの世界戦略拠点にすべく、現地の生産販売会社FURUKAWA UNIC (THAILAND) CO., Ltd.の生産設備を増強しました。

Q3 御社が今後進むべき道、目指すべき姿について
教えてください。

A3 今後も社会で必要とされる企業であり続ける
ことを目指します。

当社は1875年に創業し、今年8月で140周年を迎えます。発展の原動力となってきたのが、その創業期に鉱山開発で培った技術であることは疑いようがありません。しかし、今後も社会に必要とされる、なくてはならない会社として存続していくためには、変化する時代の中で新たなニーズに応えていくことも必要です。そのためにも、情熱を持って、魅力あるモノづくりを追求していきたいと考えます。

こうした考えのもと、これまで以上に人材育成に注力していきます。特に、国内だけでなく海外においても通用する人材づくりに取り組み、あらゆる国で存在意義を見出せる企業となることを目指していきます。

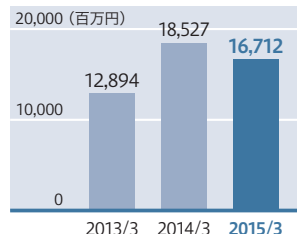
株主の皆様には、今後も引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Machinery

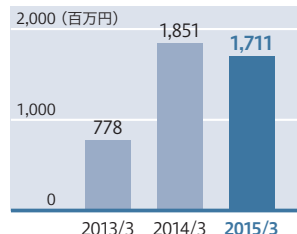
産業機械事業



売上高



営業利益

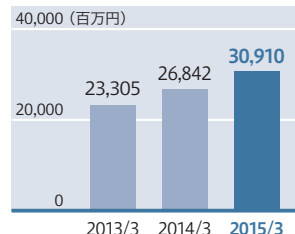


官需向けの橋梁は、2年工期の大口物件があり増収となりました。また、ポンププラントのほか、破碎機等の一般産業機械も売上を伸ばすことができました。震災被災地における高台移転工事については、出来高に対応した売上を計上しました。

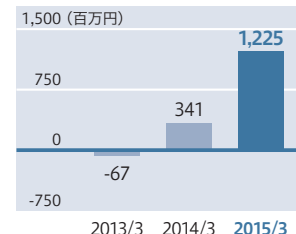
ロックドリル事業



売上高



営業利益 (損失)



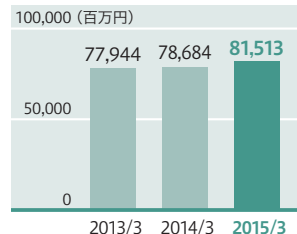
国内は、油圧ブレーカ、油圧圧砕機、油圧クローラドリル、トンネルドリルジャンボの売上が伸びました。海外は、中近東では油圧ブレーカの新シリーズ製品が好調で、北米、アフリカでは油圧クローラドリルの出荷が伸び増収となりました。

Material

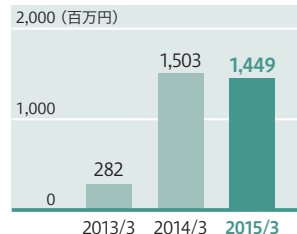
金属事業



売上高



営業利益

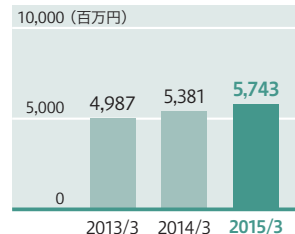


電気銅の販売量は、96,675トン(対前期比1,708トン増)となりました。電気銅海外相場は下落しましたが、数量増、円安を主因として増収となりました。

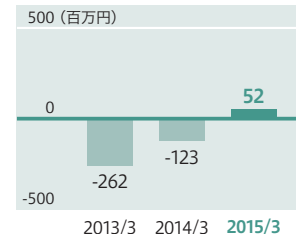
電子材料事業



売上高



営業利益 (損失)

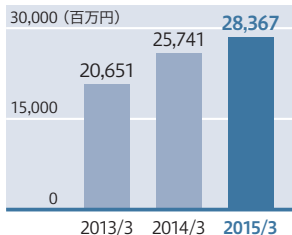


主力の高純度金属ヒ素については、原発事故風評被害により未だ苦戦が続いていますが、コイルは車載向けに売上を伸ばすことができました。

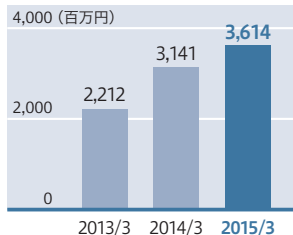
ユニック事業



売上高



営業利益

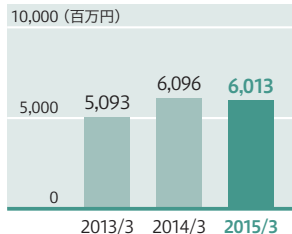


国内普通トラックの登録台数が対前期比9.6%増となり、ユニッククレーン、ユニックキャリアの出荷が伸びました。海外向けも北米、欧州に加え、東南アジアでインフラ整備用に売上を伸ばすことができました。

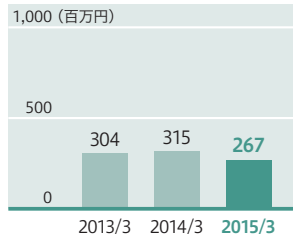
化成品事業



売上高



営業利益



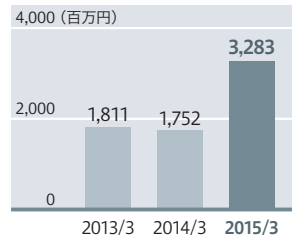
ポリ硫酸第二鉄溶液等の売上は伸びましたが、酸化チタンの出荷は低調でした。

Others

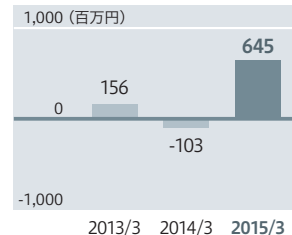


不動産・その他

売上高



営業利益 (損失)



不動産事業は、2014年2月に竣工した室町古河三井ビルディングの賃貸収入により収益を伸ばすことができました。売上高は25億35百万円(対前期比15億22百万円増)、営業利益は7億76百万円(前期は43百万円の損失)となりました。

主なニュースリリース

2014年11月26日 研究開発体制を刷新「つくば総合開発センター」新設

技術研究所、素材総合研究所、半導体装置事業室を12月1日付で統合。中核事業会社に密着し、開発の効率化とスピードアップを図ります。



2015年1月28日 フラット型ユニックキャリア『Neoα+』発売

『Neoα』をフルモデルチェンジしたユニックキャリアの最上位機種です。随所に改良を行い、基本性能を一層向上させました。



2015年2月3日 ユニッククレーン タイを世界戦略製品の生産拠点に

タイでユニッククレーン及びミニ・クローラクレーンの生産販売を担うFURUKAWA UNIC (THAILAND) CO.,Ltd.の生産能力を拡大。既存の工場敷地内に新建屋を建設し、生産設備を増強しました。



2015年3月20日 ユニックキャリア 栃木県小山工場に塗装工場を新設

ハイグレード塗装などのユーザーニーズに応えるため、小山工場に塗装工場を新設。最新鋭設備による塗装能力アップと品質向上を実現しました。



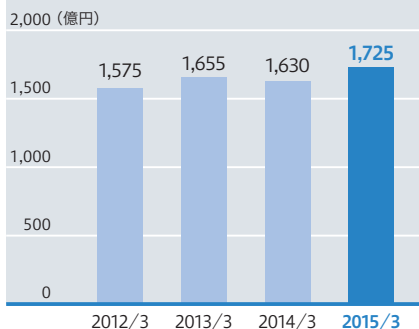
2015年3月30日 早期乳がんの発見に威力『乳房用PET PEMGRAPH』発売

古河シンテック(株)が乳房専用PETを開発。全身用PETでは困難とされていた早期乳がんの発見の可能性が大幅に高まります。



売上高 (連結)

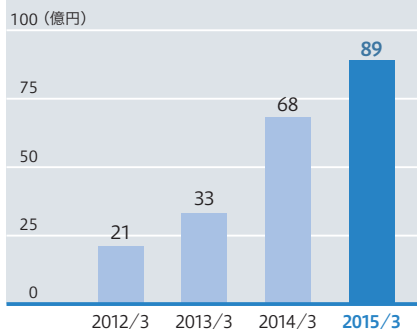
1,725 億円



主にロックドリル事業、ユニック事業、金属事業、不動産事業で対前期比増収となり、売上高は1,725億44百万円(対前期比95億18百万円増)となりました。

営業利益 (連結)

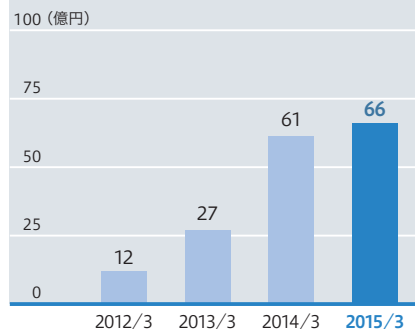
89 億円



主にロックドリル事業、ユニック事業、不動産事業での増収により増益となり、営業利益は89億25百万円(対前期比20億39百万円増)となりました。

経常利益 (連結)

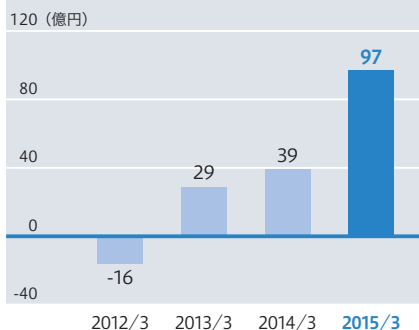
66 億円



経常利益は、持分法による投資損失等を計上した結果、66億3百万円(対前期比4億52百万円増)となりました。

純利益 (連結)

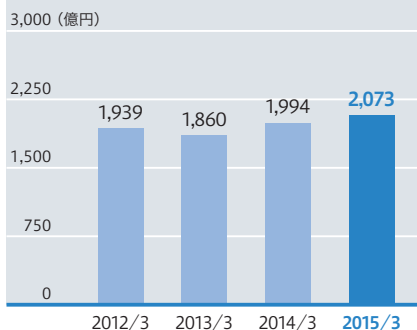
97 億円



ポート・ケンブラ・カバー Pty. Ltd. 事業の撤退完了に伴い、保有していた債権を放棄したことで税金費用が軽減し、法人税等調整額が50億17百万円の利益計上となり、当期純利益は97億93百万円(対前期比58億16百万円増)となりました。

総資産 (連結)

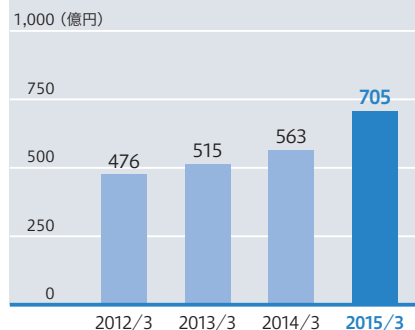
2,073 億円



主として商品及び製品、仕掛品の増加、上場株式の株価上昇等による投資有価証券の増加により、2,073億17百万円(対前期末比79億8百万円増)となりました。

純資産 (連結)

705 億円



利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加等により、純資産は705億81百万円(対前期末比142億67百万円増)となりました。自己資本比率は33.2%(対前期末比5.8ポイント上昇)となりました。

会社概要及び株式の状況

(2015年3月31日現在)

会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO.,LTD.

創 業 1875(明治8)年8月
 設 立 1918(大正7)年4月
 資 本 金 282億818万円
 従業員数 2,456人(連結)
 本 社 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)
 電話(03)3212-6570

取締役及び監査役

(2015年6月26日現在)

代表取締役会長 相馬 信義
 代表取締役社長 宮川 尚久
 専務取締役 松本 敏雄
 社外取締役 吉田 政雄
 取締役 岩田 穂
 取締役 松戸 茂夫
 取締役 三村 清仁
 常勤監査役 江本 善仁
 常勤監査役 猿橋 三郎
 社外監査役 友常 信之
 社外監査役 初瀬 良治
 社外監査役 上野 徹郎

執行役員

(2015年6月26日現在)

副社長執行役員 座間 学
 専務執行役員 中村 晋
 上級執行役員 渡邊 修
 上級執行役員 松戸 茂夫
 上級執行役員 三村 清仁
 執行役員 久野 佳成
 執行役員 井上 一夫
 執行役員 阿部 裕之
 執行役員 佐野 喜芳
 執行役員 名塚 龍己
 執行役員 荻野 正浩
 執行役員 宮嶋 健

古河機械金属グループ

機械事業	産業機械事業	古河産機システムズ(株)
	ロックドリル事業	古河ロックドリル(株)
	ユニック事業	古河ユニック(株)
素材事業	金属事業	古河メタルリソース(株)
	電子材料事業	古河電子(株)
	化成事業	古河ケミカルズ(株)
その他事業	不動産事業ほか	古河機械金属(株)

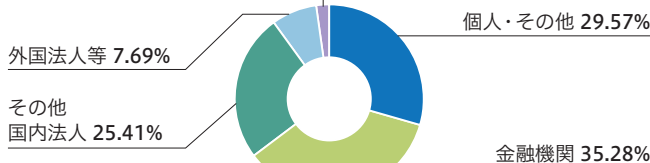
株式の状況

株式

発行可能株式総数	800,000,000 株
発行済株式の総数	404,455,680 株
株主総数	27,880 名

所有者別株式構成

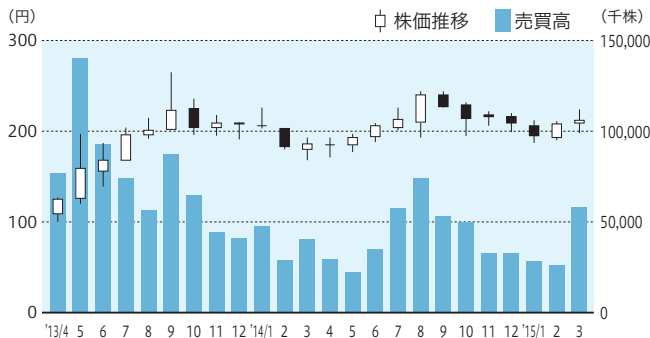
証券会社 2.05%



大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,875	8.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	26,247	6.48
朝日生命保険相互会社	23,734	5.86
清和総合建物株式会社	15,034	3.71
横浜ゴム株式会社	13,411	3.31
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	10,756	2.65
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機株式会社	8,620	2.13
中央不動産株式会社	6,877	1.70

株価の推移



株主メモ

- **本社**
〒100-8370 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
電話 (03) 3212-6561 (法務部)
- **事業年度の末日** 3月31日
- **定時株主総会** 6月
- **定時株主総会の基準日** 3月31日
- **期末配当の基準日** 3月31日
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- **公告掲載のホームページ** <http://www.furukawakk.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
- **単元株式数** 1,000 株
- **株主名簿管理人**
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- **特別口座の口座管理機関**
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- **郵便物送付先及び各種お問合せ先**
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120) 782-031 (フリーダイヤル)

お知らせ

- **住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について**
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- **未払配当金の支払いについて**
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

FURUKAWA CO.,LTD.

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)

電話 (03) 3212-6570

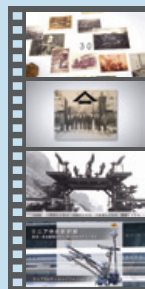
<http://www.furukawakk.co.jp>

140 years



会社紹介映像 「140 years」を公開しました!

今年で創業140周年を迎えるにあたり、会社紹介映像を刷新しました。4部構成で、当社の原点、社会との関わり、製品群を短時間(日本語版10分30秒、英語版10分50秒)で確認できる映像となっています。Webサイト「個人投資家の皆様へ」ページ及びYouTubeでも公開していますので、ぜひご覧ください。



過去から現在までの写真を並べ140年を表現した
オープニング 「140 years」

足尾銅山の古いフィルムから当社起源を紹介した
Chapter 1 「古河機械金属のなりたち」

日本の高度成長期にどう関わってきたかを紹介した
Chapter 2 「近代化への道」

現在の主力製品群を紹介した
Chapter 3 「未来へと続く道」

個人投資家の皆様へ

<http://www.furukawakk.co.jp/ir/individual/>



YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=hVFQY8Ahp0s>

WebサイトでもIR情報をご覧ください!

株主・投資家情報ページ

<http://www.furukawakk.co.jp/ir/>

